

株式会社ドトール・日レスホールディングス

URL <http://www.dnh.co.jp>

本社 東京都渋谷区猿楽町10番11号

TEL 03-5459-9178（代表）

DOUTOR

株式会社ドトールコーヒー

www.doutor.co.jp

NRS

日本レストランシステム株式会社

www.n-rs.co.jp



環境保全のため、FSC認証紙と大豆油インキを使用して印刷しています。



C O N T E N T S

株主の皆様へ	1
経営戦略Q&A	2
連結決算ハイライト	5
主な事業会社の営業状況	6
連結財務諸表	7
社会環境活動について	9
レポート! 注目業態	11
ドトール・日レスTOWN訪問記	12
会社概要	13
会社の沿革	15
株式情報	17

DNREPORT Vol.3

株式会社ドトール・日レスホールディングス
2009年2月期 報告書

株主の皆様へ

株主の皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当社事業へのご理解と格別のご支援を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

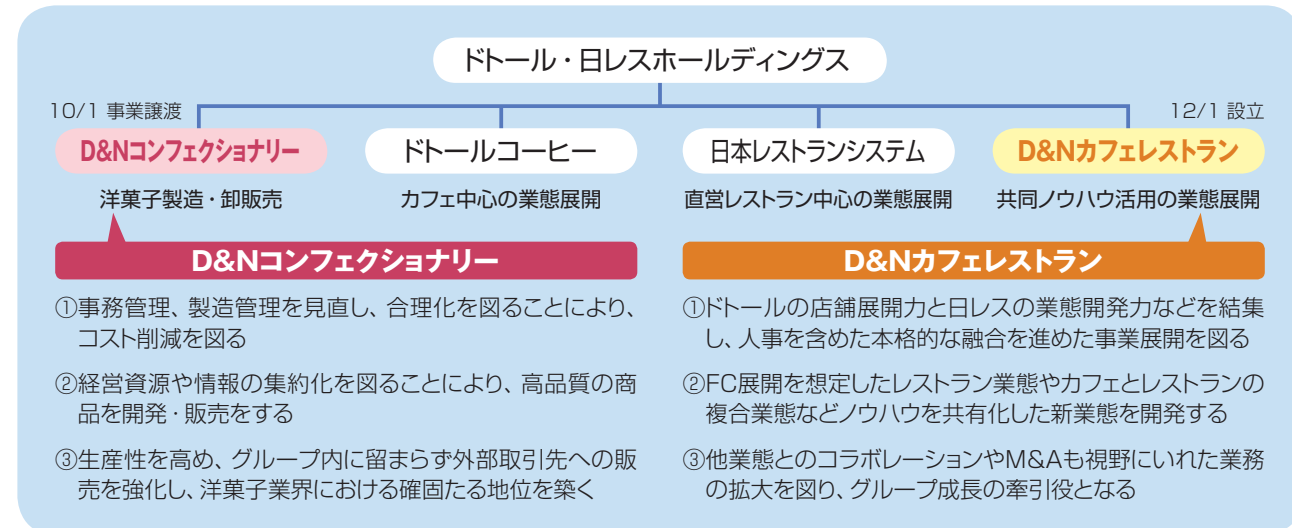
当期における経済環境は、米国のサブプライムローン問題を起因とする金融市場の混乱が世界の实体经济にも波及し、在庫調整や雇用調整などから、かつてない景気後退局面を迎えました。外食業界におきましても、食材の高騰などにより企業収益が圧迫されたほか、景況感を反映した生活防衛意識の高まりによる消費行動の変化など、非常に厳しい経営環境の中で推移しました。

こうした状況下、当期において当社グループは【外食業界におけるエクセレント・リーディングカンパ

ニー】の地位確立を目指し、洋菓子製造卸の効率化・強化を図るため、関連会社を統合し100%子会社「D&Nコンフェクショナリー」を設立いたしました。また、店舗展開力と業態開発力など、グループのノウハウを結集した店舗運営や新業態開発を行うための事業会社「D&Nカフェレストラン」を設立するなど、将来を見据えた事業基盤を固めてまいりました。

当社は、融合から生まれる改善と進化を着実に成し遂げ、今後更なる飛躍と成長を果たしていく所存です。株主の皆様方におかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2009年5月



MANAGEMENT STRATEGY

経営戦略Q & A 代表取締役会長 山内 実 代表取締役社長 星野 正則

店舗展開力と業態開発力を結集し、事業環境の激変を乗り越えてまいります。



当期におけるテーマと取組状況、その成果についてお聞かせください。

当期における当社の取組みは、ドトールコーヒーと日本レストランシステムの経営統合における理念のもとノウハウの共有化を図り、事業会社ごとの最優先課題を決めるとともに、シナジー効果実現を果たすための基盤固めに努めました。

各事業会社においては、ドトールコーヒーにおける効率化の推進、日本レストランシステムにおける新規出店の加速を最優先課題として取組み、ドトールでは前年度より営業利益率を0.7%改善、日レスでは47店舗の新規出店を果たすなど、ノウハウの共有化により一定の成果を上げることができました。また、ホールディングスとして、将来に向けた子会社を2社新設したほか、組織体制の強化を図るなど、統合効果の早期実現に向け、着実に進化いたしております。

かつてない景気後退局面の中、当期の業績は厳しい結果となりましたが、当社では短期的な業績の改善に努めるとともに、中長期的な戦略を確実に成し遂げることで、高収益と成長の両立を実現してまいります。

代表取締役社長
星野 正則





景気の後退によって、現在どのような影響が現れていますか？ また、今後の見通しは？

景気悪化や雇用不安などから生活防衛意識が高まり、消費者の購買行動に変化が見られ、外食を控える傾向があることは否めません。当社においても、現在の景況感から既存店の客数が前年を下回るなど、特にロードサイド立地の店舗が苦戦しており、厳しい環境に置かれております。

このような経営環境はすぐに回復していくことはないと思われませんが、当社では社員教育を強化することで、お客様へのサービス強化を図る所存です。また、季節感のある食材や健康に配慮した商品などの販売を強化するほか、セットメニューの改善などを行うことで、商品価値を高め、付加価値を最大化することにより、リピーターの来店頻度を高める対応策を打つ所存です。今後も既存店の活性化と新規出店の加速、更に新業態の開発を行っていくことにより業績の改善に努めてまいります。



経営統合効果を具現化する新たな展開についてご説明願います。

これまで消耗品などの仕入の共通化やグループ間の内製化など、統合効果を着実に実現してまいりました。今後については、新設子会社2社において、更なる統合効果の具現化に努めていく所存です。

代表取締役会長
山内 実

具体的には、洋菓子製造卸会社であるD&Nコンフェクショナリーにおいて、生産性の向上を図ることで、グループ内にとどまらず外部取引先への販売を強化し、収益基盤を拡大してまいります。また、グループのノウハウを結集するD&Nカフェレストランにおいて、FC展開を想定したレストラン業態や複合業態などの新業態を開発していくことなど、中期的に新設子会社がグループの成長の牽引役となるべく、グループ全体の事業展開を図っていくことで進化を果たしてまいります。



来期の見通しはいかがでしょうか？

当社では、企業マインドの低下、雇用情勢の悪化、景気後退と所得水準の低下による節約志向の高まりなど、非常に厳しい経営環境が継続すると想定しております。

しかしながら、当期における先を見据えた経営基盤の確立や新規出店が年間を通じて収益に寄与するほか、円高による海外からの輸入による粗利益率の改善が見込めること、また既存店の活性化策や新規出店、更に新業態を開発していくことで増収増益を果たしていく所存です。

来期のグループ連結業績については、売上高106,490百万円、営業利益10,734百万円、経常利益11,059百万円、当期利益5,519百万円を計画しております。



株主の皆様へのメッセージをお願いします。

当期につきましては、ノウハウの共有化によるグループの基盤固めに努めるとともに、新設子会社を設立するなど、一定の成果を上げることができました。しかしながら、かつてない経済の後退局面の中とはいえ、計画通りの業績を出すことができなかったことも事実です。現在の経営環境は大変厳しい状況ではございますが、当社におきましては世界的な金融システムの不安にも全く動じない磐石な財務基盤をもとに、激しく変化する経営環境を迅速に察知し、素早かつ的確に対応することで、株主の皆様にご満足いただけるよう、業績の改善に努めていく所存です。

株主の皆様におかれましては、当社の磐石な財務基盤、高収益と成長を両立していく将来性にご期待をいただき、変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

FINANCIAL HIGHLIGHT

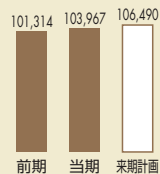
連結決算ハイライト

当期ポイント

- ノウハウの共有化によりドトールの効率化と日レスの新規出店加速が進捗。
- 将来に向けた成長の牽引役となる事業子会社2社を設立。
- 組織体制の確立によるグループ経営の強化を推進。
- 経営環境悪化により高単価業態の既存店が伸び悩み。

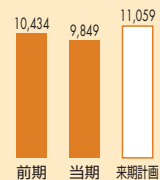
連結売上高

103,967 百万円
(前期比 2.6% 増)



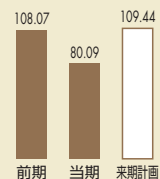
連結経常利益

9,849 百万円
(前期比 5.6% 減)



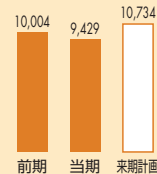
連結1株当たり当期純利益

80.09 円



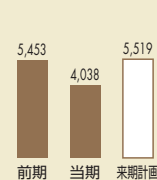
連結営業利益

9,429 百万円
(前期比 5.7% 減)



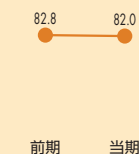
連結当期純利益

4,038 百万円
(前期比 25.9% 減)



連結自己資本比率

82.0%
(前期比 0.8 ポイント減)



BUSINESS REVIEW

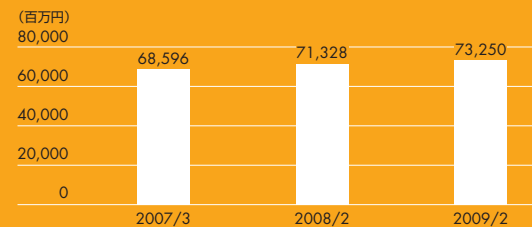
主な事業会社の営業状況

ドトールコーヒー

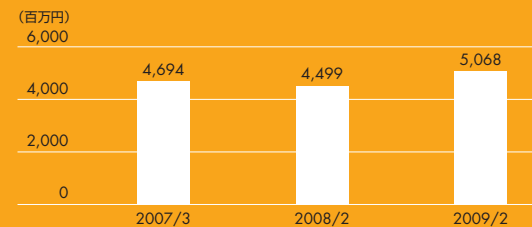
当期においては、年間MD計画に沿った季節ごとのキャンペーンや発芽玄米入り特製パンを使用したカンパーニュサンド、全粒粉入りパンを使用したパニーニなど健康に配慮した新商品の発売を行ったほか、ドトールコーヒーショップ創業以来の定番メニューである「ジャーマンドック」のリニューアルをはじめ、エクセルシオール カフェの「モーニングセット」刷新など【原点回帰～基本は常に進化する～】をテーマに、おいしさの追求に努めた結果、フランチャイズを含めた既存店売上は前年を上回ることができました。

また、一般卸売上においても、ドリップやコーヒー原料の販路拡大に注力したほか、コンビニ向けチルド飲料の新商品を積極的に展開した結果、前年を大きく上回ることができました。

売上高



経常利益

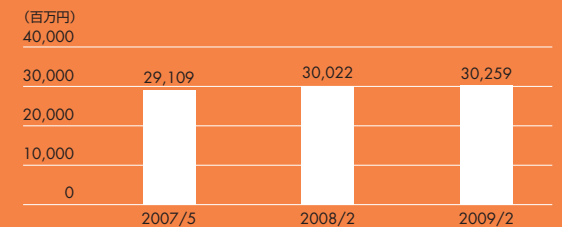


日本レストランシステム

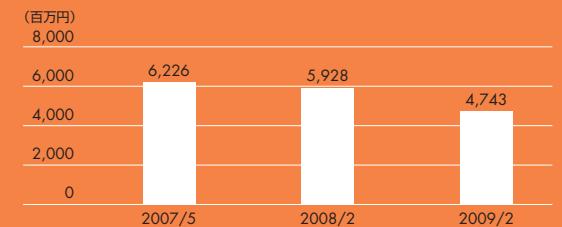
当期においては、商品価値の向上を目指して、「先斗入ル」等の新メニューの開発を行うほか、紅茶専門店「ザ・ダージリン」、クイックパスタの「PASTA-YA」の新業態を開発しました。また、ハンバーグメニュー中心の「TAWARA-YA (俵屋)」の展開を進め、お客様にご好評を頂きました。しかしながら、上期におけるガソリン価格の高騰や生活防衛意識の高まりから、ロードサイド店舗の来店客数が伸び悩んだことにより、既存店は前年を下回ることとなりました。

店舗展開につきましては、好立地物件が安価で多数出たこともあり、計画を大きく上回る47店舗の新規出店を果たすことができたほか、顧客の嗜好にあわせ、「TAWARA-YA (俵屋)」など、12店舗の業態変更を行いました。

売上高



経常利益



(注)当期結果は、D&Nコンフェクショナリーの業績を除いたもので、前年との単純比較はできません。

CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当期 2009年2月28日現在	前期 2008年2月29日現在
資産の部		
流動資産	25,817	26,529
固定資産	68,093	64,628
有形固定資産	32,573	29,865
無形固定資産	1,415	1,521
投資その他の資産	34,103	33,241
資産合計	93,910	91,158
負債の部		
流動負債	13,568	12,299
固定負債	3,373	3,364
負債合計	16,942	15,664
純資産の部		
株主資本	78,144	76,030
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	25,858	25,858
利益剰余金	51,653	49,537
自己株式	△367	△365
評価・換算差額等	△1,183	△540
その他有価証券評価差額金	△1,182	△540
繰延ヘッジ損益	△1	—
少数株主持分	7	3
純資産合計	76,968	75,493
負債及び純資産合計	93,910	91,158

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当期 2008年3月1日から 2009年2月28日まで	前期 2007年3月1日から 2008年2月29日まで
売上高	103,967	101,314
売上原価	43,324	42,304
売上総利益	60,643	59,010
販売費及び一般管理費	51,213	49,005
営業利益	9,429	10,004
営業外収益	558	513
営業外費用	138	83
経常利益	9,849	10,434
特別利益	1,735	504
特別損失	3,758	1,267
税金等調整前当期純利益	7,825	9,670
法人税、住民税及び事業税	4,596	4,480
法人税等調整額	△813	△263
少数株主損失	3	0
当期純利益	4,038	5,453

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当期 2008年3月1日から 2009年2月28日まで	前期 2007年3月1日から 2008年2月29日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,162	9,110
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,451	△7,748
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,897	△2,209
現金及び現金同等物に係る換算差額	△13	△14
現金及び現金同等物の減少額	△1,199	△862
現金及び現金同等物の期首残高	16,754	17,616
現金及び現金同等物の期末残高	15,554	16,754

POINT

貸借対照表

自己資本比率82%。一株当たり当期自己資本1,526円。
世界金融システム不安に全く動じない磐石な財務基盤を保持。

損益計算書

売上高1,039億円超。経常利益98億円超。経常利益率9.5%。
高収益と成長を両立させる外食企業としての地位を確立。

キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローで更なる成長を果たす投資
活動(設備投資)のキャッシュをまかなえる磐石な体制。

連結株主資本等変動計算書(要旨)

(2008年3月1日から2009年2月28日まで)

(単位:百万円)

科 目	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算 差額等合計		
2008年2月29日残高	1,000	25,858	49,537	△365	76,030	△540	—	△540	3	75,493
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当	—	—	△1,922	—	△1,922	—	—	—	—	△1,922
当期純利益	—	—	4,038	—	4,038	—	—	—	—	4,038
自己株式の取得	—	—	—	△1	△1	—	—	—	—	△1
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△642	△1	△643	3	△639
連結会計年度中の変動額合計	—	—	2,116	△1	2,114	△642	△1	△643	3	1,474
2009年2月28日残高	1,000	25,858	51,653	△367	78,144	△1,182	△1	△1,183	7	76,968

環境活動 について

環境方針の策定

ドトール・日レスホールディングスは、自らの環境負荷の低減と、地球環境の保全、改善など持続可能な社会の構築を推進するため、2009年5月、環境方針を策定しました。

また「リスク・コンプライアンス委員会」に環境部会を設置し、事業会社と連携して環境活動を推進しています。

環境方針

1. 生産、製造からサービス提供後までの事業活動において、省エネルギー、クリーンエネルギーの使用を推進します。
2. 廃棄物の分別の徹底、減量、リサイクルを推進します。
3. 商品開発において、地球環境との共生を図り、持続可能な商品調達を推進します。
4. 環境に関する法規制を守り、情報を適切に開示して、環境活動を推進するコミュニケーションを図ります。

店舗・工場における環境保全

工場 での取り組み

またい ●麻袋のリサイクル

コーヒー生豆は一部の生産国を除き、麻袋で輸入されているため、使用済みの麻袋を業者に引きわたし、固形燃料の材料としてリサイクルしています。



店舗 での取り組み

●食器やタンブラーでの提供

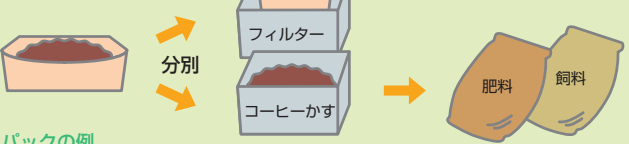
何度も使える食器で商品を提供していることや、テイクアウトなどお客様の持ち込みのタンブラーでの提供をしています。



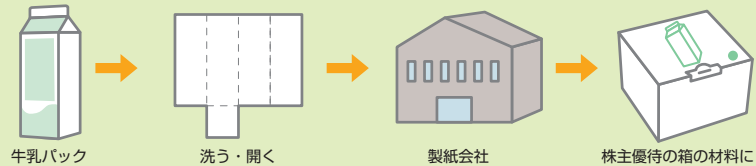
●店舗でのゴミの分別

毎日大量に出るコーヒーかすは肥料へ、牛乳パックは再生紙や株主優待の梱包に使用する箱へとリサイクルを推進しています。フィルターとコーヒーかすを分別したり、牛乳パックの処理を行うというひと手間で、ゴミではなく肥料や紙パルプ等の資源として生まれ変わります。

■食品廃棄物 コーヒーかすの例



■資源物 牛乳パックの例



●省エネルギー

自動換気システムや自動照度調整設備、またサイン看板にはCO₂削減に効果的なLED照明の導入など省エネを実現した店舗設計を推進しています。



社会貢献活動 について

社会貢献活動として、カンボジアでの教育支援を行っております。ドトールコーヒーショップ各店と当社で募金活動を行い、以下の学校開校に寄与しました。

コンボンクロニュー新校舎全景



ソヴァンサッコー小学校の子もたち



カンボジア・ドトール学校 開校記録

1. ドトールアンチャウボンニエ小学校	2000年 2月
2. プレイツノー小学校	2001年 2月
3. チョンホーン小学校	2001年 2月
4. クダ小学校	2002年 5月
5. プレイベーン小学校	2002年 6月
6. ソヴァンサッコー小学校	2003年 7月
7. アンチャウボンニエ小学校(第2校舎)	2003年 9月
8. クサッチャ小学校	2004年 7月
9. ワットダムレイボン小学校	2004年 7月
10. ギャレットモーガン・キリブラサット小学校	2004年 7月
11. ワットオー小学校	2005年 9月
12. コンボンクロニュー小学校	2006年 9月
13. プレイベーン小学校(第2校舎)	2007年 9月
14. クダ小学校(第2校舎)	2007年 9月
15. プレイビエイ小学校	2008年 11月
16. コッスーノ小学校	2009年 1月

オリーブの木はD&Nカフェレストランへ運営委託 日レスのパスタ業態のノウハウを導入し、 来期新規出店推進へ

気軽にイタリアンテイストを楽しめるスパゲティとピッツアの店「オリーブの木」。厳選した旬の素材と良質なデュラム小麦の麺を使用し、オリジナルに開発したトマトソースやクリームソースが自慢です。豊富な種類のスパゲッティやモチモチ生地の本格ピッツアに加え、ティラミスやチーズケーキなどのスイーツも充実。毎日のランチ需要はもちろん、ディナータイムにも対応し、魚介や野菜とも相性のいいワインを各種取り揃え、気の置けない仲間どうしの楽しい語らいのひとときにもご利用いただけます。木を基調とした温もりのある空間のなか、本格的なのに気取りのないイタリアのホームパーティのように、陽気でおおらかな料理でおもてなしいたします。

オリーブの木
光が丘店

TEL 03-5997-3116
営業時間 11:00～23:00 (LO 22:00) 101席



お客様の嗜好にあわせたハンバーグ中心のメニューを展開 今期更なる新規出店の加速により主力業態を目指す

ハンバーグメニュー中心のTAWARA-YAは、俵屋じゅう兵衛、ハンバーグ&カレーTAWARA-YA、グリル俵屋、ハンバーグ&パスタTAWARA-YAなど様々なシリーズで展開しております。コンセプトは、「美味しいハンバーグ・ステーキを納得のお値段で」であり、店名の由来は、俵の形をした俵ハンバーグと俵ステーキから来ています。俵ハンバーグは、牛肉の脂の旨味が凝縮されたジューシーなハンバーグで、味と形において他店と差別化しております。ご案内する名古屋競馬場前店の店内は、アメリカンモダンを基調とした内装デザインで、大きいサイズのテーブルや椅子を使用し、ゆったりとした居心地の良い空間となっています。

TAWARA-YA
名古屋競馬場前店

TEL 052-651-7256
営業時間 11:00～22:30 (LO22:00) 54席

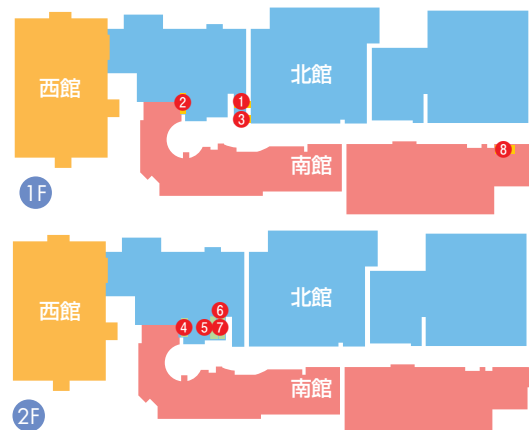
集中出店エリアを
チェック!

ドトール・日レスTOWN訪問記

千葉「ららぽーとTOKYO-BAY」

三井ショッピングパーク・ららぽーとTOKYO-BAYは、1981年に誕生した、540の専門店、レストラン、映画館など様々なアミューズメント施設を備えた商業施設です。コートでは様々なイベントが開催され、地元放送局であるbayfmの番組公開収録も行われております。

船橋にお越しの際は、ぜひご利用ください。



JR南船橋駅下車徒歩5分
※無料送迎バスがあります。
京成船橋競馬場駅下車徒歩10分
※無料送迎バスがあります。



④安全・安心・健康さん一む 047-495-2370 北館2F

有機栽培・無農薬・減農薬の野菜を厳選して使用しております。全てのメニューで発芽玄米入り麦めしに黒米をお選びいただけます。

⑤洋麺屋五右衛門 047-437-6162 北館2F

ゆであげのスパゲッティでおなじみの洋麺屋五右衛門です。大釜でゆったりとゆであげるパスタのシコシコ感は当店ならではの歯ごたえです。

⑥俵屋じゅう兵衛 047-437-0078 北館2F

俵屋じゅう兵衛のハンバーグはその名のとおり俵型となっております。肉汁が逃げず、旨みが凝縮されているのが、美味しさの秘訣です。

⑦キッチン卵 047-437-1066 北館2F

たっぷりの卵でふんわりと仕上げたオムライスは、すでに高校生からファミリー、OLのお客様を中心に大好評となっております。

⑧黒豚庵薩摩黒豚と芋焼酎 047-437-0771 南館1F

鹿児島産黒豚を使用したしゃぶしゃぶや、その他一品料理と薩摩焼酎を落ち着いた空間でお楽しみいただけるお店です。

①ドトールコーヒーショップ 047-495-4032 北館1F

お買物の休憩は、リーズナブルなドトールのコーヒーをどうぞ。高品質低価格のコーヒー豆とフードメニューも豊富に取り揃えております。

②地鶏や 047-436-5800 北館1F

鶏は福島県産の伊達地鶏を使用しております。赤穂の天然塩で焼く串焼きの他バリエーション豊かな鶏料理を提供します。

③にんにく屋五右衛門 047-736-4131 北館1F

選りすぐりのにんにくをあらゆる調理法で料理一品一品に取り込みました。メニューはエスニック系の多国籍スタイルで健康にも良いにんにくはビールやワインとの相性も抜群です。

CORPORATE PROFILE

会社概要

株式会社ドトール・日レスホールディングス

商号 株式会社ドトール・日レスホールディングス
設立 2007年10月1日
資本金 10億円
従業員数 2,037名(連結)
本社 東京都渋谷区猿楽町10番11号
03-5459-9178(代表)
事務所 東京都渋谷区神南一丁目10番1号
03-5459-9178(代表)
URL http://www.dnh.co.jp

●取締役
代表取締役会長 山内 実
取締役 大林 豁史
取締役 稲森 六郎
取締役 青木 幸隆
(社外)取締役 財前 宏
代表取締役社長 星野 正則
取締役 鳥羽 豊
取締役 木高 毅史
取締役 長沼 敏之
(社外)取締役 稲垣 道子
●監査役
監査役 高橋 圭介
(社外)監査役 梶川 浩
監査役 宮林 哲夫
(社外)監査役 吉島 重鐵

株式会社ドトールコーヒー

商号 株式会社ドトールコーヒー
設立 1962年4月
資本金 111億41百万円
本社 東京都渋谷区神南一丁目10番1号
03-5459-9008
URL http://www.doutor.co.jp

日本レストランシステム株式会社

商号 日本レストランシステム株式会社
設立 1973年6月
資本金 35億5百万円
本社 東京都渋谷区猿楽町10番11号
03-5456-0123
URL http://www.n-rs.co.jp

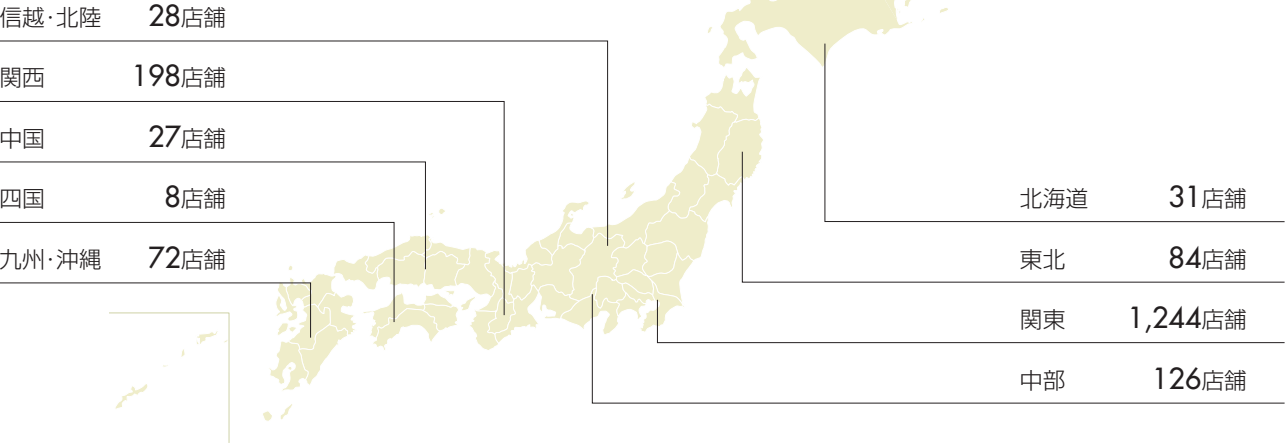
D&Nコンフェクショナリー株式会社

商号 D&Nコンフェクショナリー株式会社
設立 2008年8月
資本金 4億80百万円

D&Nカフェレストラン株式会社

商号 D&Nカフェレストラン株式会社
設立 2008年12月
資本金 2億円

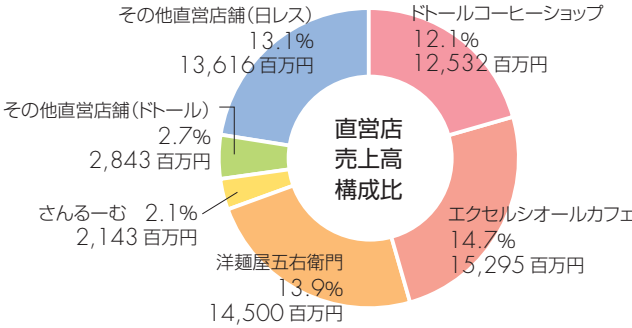
地域別店舗数



業態別店舗数

業 態 名	2009年2月	
	全店	うちFC
ドトールコーヒーショップ	1,124	975
エクセルシオール カフェ	175	36
カフェ コロラド	109	108
オリーブの木	9	4
洋麺屋 五右衛門	163	—
さんるーむ	31	—
卵と私	18	—
その他	189	3
合計	1,818	1,126

※日本レストランシステムの業態は全て直営です。



※直営店の売上高は総売上高の58.6%を占めます。

CORPORATE HISTORY

会社の沿革



※年表の店舗外観、商品、メニュー写真などは当時のものがいないため、現在のものを使用している場合があります。

STOCK INFORMATION

株式情報(2009年2月28日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	200,000,000株
発行済株式の総数	50,609,761株
株主数	25,108名

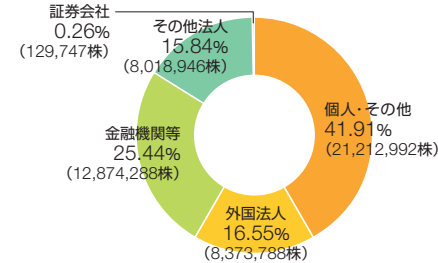
大株主

	持株数(千株)	出資比率(%)
大林 裕史	6,748	13.34
鳥羽 博道	5,510	10.89
株式会社マダム・ヒロ	3,728	7.37
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	3,293	6.51
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	3,048	6.03
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口4G）	1,467	2.90
日本たばこ産業株式会社	1,320	2.61
山内 実	924	1.83
マサ シャパニーズ エクイティ	871	1.72
日興シティ信託銀行株式会社（投信口）	758	1.50

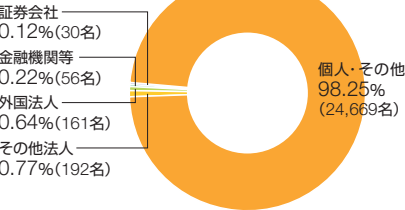
*出資比率は自己株式(9,214株)を控除して計算しております。

株式・株主分布

所有者別株式分布



株主構成



株主優待のご案内

当社の株主優待制度は下記のとおりです。

1 対象株主

毎年2月末日現在の株主名簿に記載された1単元（100株）以上保有の株主様を対象とさせていただきます。

2 優待制度の内容

保有株数	内 容
100株以上500株未満	2,500円相当の商品
500株以上	4,500円相当の商品

3 贈呈時期

毎年6月の贈呈を予定しております。

株式に関するお知らせ

当社株式に関するお手続き〔単元未満株式の買取・買増について、配当金のお受取について〕に関しては、下記ご案内をご参照いただきますようお願いいたします。

———単元未満株式の買取・買増について———

単元未満株式（100株に満たない株式）の買取・買増を請求することができます。

当社では単元未満株式を買い取らせていただく「買取制度」と、不足分を買い増していただき単元株式（100株）にまとめる単元未満株式の「買増制度」をご利用いただけます。

———配当金のお受取について———

配当金については、最寄の「ゆうちょ銀行」または「郵便局」の貯金窓口にてお受取いただけます。

配当金は、支払い開始日から満3年を経過しますと当社は支払い義務を免れ、支払いに応じかねますので、確実に配当金をお受取いただける銀行等預金口座への振込、またはゆうちょ銀行の貯金口座への振込をおすすめいたします。

株式に関するお手続き等について

お 手 続 き	お問い合わせ先	
	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
●株主名簿記載事項の変更 商号・氏名、住所、代理人選任、変更など ●単元未満株式の買取請求 ●単元未満株式の買増請求 その他手続きに関する事項	口座を開設した証券会社にお問い合わせください。	みずほ信託銀行 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 TEL:0120-288-324
●未払い配当金	みずほ信託銀行 〒168-8507東京都杉並区和泉2-8-4 TEL:0120-288-324	

お問い合わせ先(株主名簿管理人) 取次所 **みずほ信託銀行株式会社 証券代行部** **フリーダイヤル 0120-288-324**
みずほ信託銀行株式会社 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

株主メモ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎年5月に開催します。
基準日	定時株主総会 2月末日 期末配当金 2月末日 中間配当金 8月31日 そのほか株主総会を開催する必要がある場合は、あらかじめ公告して基準日を定めます。
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324（フリーダイヤル）
公告掲載方法	電子公告により行います。（ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。）
電子公告アドレス	http://www.dnh.co.jp/ir/koukoku/index.html